

四度加行の基礎資料 (五)

―『四度用意諸切紙集 性盛ム集レ之』―

中山照玲

はじめに

本書、外題『四度用意諸切紙集 性盛ム集レ之』^①は、成田山仏教図書館所蔵

ち
1711
66

 の写本である。

縦一六・四センチ、横一六・七センチ、枡形、粘葉装で更に散供しないように紙縹^{こより}で綴じられている。

右下の綴代側に所藏者宥豊（宥豊を用いる）の朱印（縦三・七センチ、横二・二センチ）が押印してある。初めに「四度支度」として目次が記されており、この「四度支度」が内題と思われる。

目次には次のようにある。

一 花備様之事

二 五躰投地礼拜事

三 神分等之事

四 四度本尊并两祖懸様事

五 物忌之事

六 四度加行日數之事

七十八道本尊之事

八諸流四度次第分別事

九十八道六法之事

已上九通⑧私云靈深十二代行謝院澄恵ヲ御法……報恩院源雅僧正傳也

末尾に九通とあることから、広沢流西院円祐方の『九通くずう』が思い出されるのであるが、九通としてとりあげているところは同様ではない。

『四度用意諸切紙集』も『四度支度』も、このまゝの標題では国書総目録にも、佛書解説大辞典にも、その題名の文献は見られない。

そのまゝの標題のものは無いのであるが、四度の真言行者のための折紙集の中に同種のものがあり、これを対校に用いることにしたい。

ここで対校に用いた折紙集は、全二一紙から成り、全体が一枚の紙に包まれている成田山仏教図書館所蔵

183
特3
836

 の写本の折紙集②で、全体をあわせた標題は付けられていないので『折紙集』と仮称する。

その内容は次のようである。

乾^④_⑤一

加行中法度之事

乾^④_⑤二

禮拜日記（十八道加行作法）

乾^④_⑤三

五體投地事（五體投地禮拜事）

乾^④_⑤四

四度本尊并兩祖懸樣隆源僧正作
四度土代通也（四度本尊并兩祖懸樣圖）

乾^④_⑤五

物忌行者休息朝暮例時開結供物道場料理破壇

乾^④_⑤六

四度加行日數事

乾^④_⑤七

十八道本尊事

乾^④_⑤八

諸流四度次第分別事

乾^④
九^⑤

十八道六法事

坤^④

☷ 初行表白并灌頂護摩表白 (☷ 初行表白付_不手)

坤^④
一^⑤

率備樣

坤^④
二^⑤

四度散念誦

坤^④
三^⑤

神分等十八道傳授時與_レ之

坤^④
四^⑤ 追加^⑤

結願詞

坤^④
五^⑤

十八道表白_{初行_ト正行_ナ用_ル表白也} 兩度

坤^④
六^⑤

金剛界加行表白_{一度用} (金剛界表白)

坤七^④_⑤

金剛界表白^④_⑤
初行^ト正行^リ一度^ニ
用ル表白也

坤八^④_⑤

胎藏界加行表白^④_⑤
一度^ニ
表白也

坤九^④_⑤

胎藏界表白^④_⑤
初行^ト与^ニ正行^リ一度^ニ
用ル表白也
(胎藏界初行表白)

坤追加^④_⑤
此ノ一行朱筆

十度異名

坤追加^④_⑤
此ノ一行朱筆

十二合掌并六種拳事

以上の二一紙であり、外題と内題に少々異なるものがあるので、それは括弧内に記しておくこととする。

『四度用意諸切紙集』と、この『折紙集』(仮称)とを比較して見ると、『折紙集』に収められている「十八道表白」、「金剛界加行表白」、「金剛界表白」、「胎藏界加行表白」、「胎藏界表白」、「初行表白并灌頂護摩表白」等の、実際に修行中の行法の中で用いている表白類が、この『四度用意諸切紙集』には収められていない。

これは、この切紙集が四度行者が修行に入る準備段階で必要なことを伝えるために、基本的なところの九通をまとめて認めたもので、内題に「四度支度」とあるのは、それをあらわしていると思われる。

九通の標題が示されているのであるが、五の「物忌之事」の中に「物忌之事」が最初にあつて、続いて「四度中間_ニ行者休ム時尅之事」、「例時ノ事」、「朝例時」、「開白并結願佛供事」、「道場料理ノ事」、「護摩供等之事」、「神供事」、「作壇破壇事」等の八項目が収められており、この九通の標題のまゝでは全体を伺い知ることが出来ないので、次にその本文中に示されている項目を標題の下に並べあげて細目としてわかりやすくしておきたい。

四度支度細目

一、花備様之事

二、五躰投地礼拜事

記數左右事

五十四位事

三、神分等之事

神分等

小祈願

結願詞云

結願作法

四、四度本尊并兩祖懸様事

十八道加行事

一、本尊并道場料理用心事

一、十八道壇畠

一、金剛界壇畠

一、胎藏界壇畠

一、護摩壇畠者如二次第一

五、物忌之事

物忌之事

四度中間ニ行者休ム時尅之事

例時ノ事

朝例時

開白并結願佛供事

道場料理ノ事

護摩供等之事

神供事

作壇破壇事

六、四度加行日數之事

七、十八道本尊之事

八、四度次第諸流分別事

一、三寶院

一、勸修寺

一、安祥寺

一、西院

一、保壽院

一、花藏院

一、御流

一、小嶋

一、中院

一、持明院

一、礼拜加行日記

一、十八道

一、金剛界

一、胎藏界

一、護摩

九、十八道六法之事

一、十八道者六法中十八道含

一、莊二嚴行者一法

二、結界法

三、莊二嚴道場一法

四、勸請法

五、結護法

六、供養法

已上九通報恩院源雅僧正傳也

一、十八道礼拜加行ノ勤様

一、本尊如意輪毎日三時五十日

初夜

後夜

日中

大師御前

尊師御前

一、道場莊嚴之事

一、四度別行取畧之日記

一、糸引事

鳥居五色糸卷付事

鳥居之事

この九通はもともと別々に独立して別紙として書写伝来していたことは、この第九通の部分の末尾に「已上九通為別帑^ト書写傳來ス」とあるとおりであり、それぞれに奥書が記されているものがある。

その奥書等を見ると

一の「花備様之事」の中段に「已上^{④幸心降}濟記」とあり、朱筆でこの濟は幸心の隆濟であることが示されており、隆濟僧正

(二四〇九〜一四七〇)は『四度土代』^③の撰述者隆源僧正の法資で、醍醐寺報恩院の第十二世となり、將軍足利義教に尊信され、東寺第百七十世長者に補し、護持僧宣下を蒙った名僧である。

奥書には「於西々書之性盛頼心房」とあり、この部分『折紙集』には「西々」が「上醍醐」とあり、寂靜院谷の行樹院であろう。

二の「五躰投地礼拜事」には奥書は無く、『折紙集』のほうには「報恩院前大僧正源雅 在判」とある。

源雅僧正(二四九一〜一五六二)は、この『四度用意諸切紙集』目次の末の朱書部分に「憲深十二代行樹院澄恵ノ附法」

とされており、澄恵僧正（一四三二～一五一六）は『紀要』前々号・前号（四十六・四十七号）で取り上げた『四度加行用心等（十金胎護）』^④を伝授口述された阿闍梨で、源雅僧正に灌頂付法している。

源雅僧正は、報恩院第十四世となり、天文十二年（一五四二）東寺長者、法務に任ぜられ、弘治三年（一五五七）智積院日秀（一四九五～一五七七）に報恩院の一流を伝授している。

三の「神分等之事」の一紙には、『折紙集』に所収の「神分等十八道伝授時與之」と「結願詞」の二紙分が収められている。奥書には「弘長元年九月十七日於報恩院々々僧正御房御本文改 頼一」「文永八年十二月十二日於「中性院」為「初心同法」私以「朱」切「句」加「點」畢 頼一」とあり、もとの御本は弘長元年（一二六一）から見て、憲深僧正（一一九二～一二六三）の伝本であったようである。

『四度用意諸切紙集』所収の文には無いのであるが、『折紙集』所収の「結願詞」の奥書には、「弘長元年九月十七日於報恩院」の次に「源雅僧正御房御本校點 中性院性盛頼心房」とあり、混乱があるように思われる。

四の「四度本尊并兩祖懸様事」は、標題の下に「隆源僧正作
四度土代通也」と二行割書になっている。奥書には「報恩院隆源有「御清書」根来寺中性院（聖融ニ被レ遣御本也）上ノ西行樹院於「閑窓」書レ之 性盛頼心房」とあり、この『四度用意諸切紙集』では、『折紙集』に見られるような括弧内に入れてある部分が抜けており、加えておくべきであろう。^⑤

五の「物忌之事」は、先述したように、この標題の下に「物忌事」以外に八項目のことが記されている。

奥書には「於上西行樹院書^レ之 性盛頼心房^⑥」とあり、この項の下醍醐は大内政弘（一四四六～一四九五）の軍に攻撃され焼失していた頃と思われる。

六の「四度加行日數之事」の標題の下には、「報恩院源雅僧正 在判」と二行割書にしてある。

奥書には「報恩院源雅僧正西西山之日數尾州万徳寺ニ御免許之通者百日於五十日ニ御免許之今又二百日^ニ四度^於配畢
天正十七年己丑三月廿一日 法印性盛頼心房^⑦」とある。

尾州万徳寺とあるのは、尾張真言宗大本山と称された醍醐寺報恩院の末寺で、現在の愛知県稲沢市長野町東堤野にある長沼山万徳寺のことと思われる。

七の「十八道本尊之事」の奥書には、「已上四度土代ノ通也 土代ハ報恩院隆源僧正有ニ御清書 根来寺中性院聖融^エ被^レ遣一卷也 御本云於上西々行樹院書之 性盛頼心房^⑧」とあり、『四度土代』の隆源僧正から中性院聖融師への相伝についての記事は、『紀要』第四十四号に掲出させていただいている。

八の「諸流四度次第別事」は、標題には「四度次第諸流分別事」とあって、真言宗諸流の四度修行に用いる次第の作者について記しており、末には当流報恩院流で用いている四度次第の作者について記している。

奥書には「上西行樹院於ニ閑窓ニ書^レ之 性盛頼心房^⑨」とある。

九の「十八道六法之事」の奥書には、「源雅僧正ヨリ性盛傳ニ写之」^一「頼心房」とあり、それに続いて「已上九通為ニ別帋ト書写傳來スル^レ披覽不^レ便^レ因^レ之幸ニ得ニ折帋一間私ニ一帖ニ書写ス但一覽ノ捷徑ナル而已堅ク禁ス他見^一ヲ加行者ヘハ授与之^一時ハ必々以ニ別帋「一通宛ナル耳」とあり、実際に加行を修する行者へは、この九通を一通宛別々に加行者に必要に応じて授与していたことが知られる。

以上の九通に続いて記されているのは、これまでに取り上げられていないが、重要な項目で、備忘のためまた散佚しないように、九通の九紙を包んでいる表包の紙に記してあった分のものである。

それについては初めの「十八道礼拝加行勤様」の下に、「已下^ハ上乗^ノ九通ノ上ヲ摘^ク」^一と二行割書にあることから知られる。

その奥書には、この『四度用意諸切紙集』の編集者である中性院性盛頼心房（一五三七〜一六〇九）について、「中性院性盛ノ御本写^レ之頼心房性盛ハ智山日譽ノ御弟子小池坊一代也北野蓮臺寺中興ノ之名匠也」と紹介されている。

註

- ① 成田図書館蔵書分類目録 仏教部 四〇四頁上段 昭和五十二年十一月十日発行。
- ② この『折紙集』は、成田図書館蔵書分類目録編纂の頃には未整理であったために、まだ取上げられていなかったものである。
- ③ 『四度土代』については、成田山仏教研究所 紀要 第四十四号 令和三年（二〇二一）二月発行 三五頁〜九四頁。
- ④ 『四度加行用心等（十金胎護）』については、成田山仏教研究所 紀要 第四十六号 令和五年（二〇二三）二月発行 三九頁〜七九頁。

成田山仏教研究所 紀要 第四十七号 令和六年（二〇二四）二月発行 五五頁～九六頁。

⑤ 前註③『四度土代』六一頁 八～十六行目までの小字奥書部分参照。

⑥ 前註④『四度加行用心等（十金胎護）』の「むすび」を参照。

⑦ 日本歴史地名大系23 『愛知県の地名』 平凡社 一九八一年一月三〇日発行 四一六頁中段参照。

凡例

⑧ 底本 成田山仏教図書館所蔵

ち
1711
66

 『四度用意諸切紙集』で、享和三（一八〇三）年の有豊師の書写本と思われる。

① 異本 成田山仏教図書館所蔵

183
特3
836

 の四度折紙二十一紙をまとめたもので、ここでは『折紙集』と仮称して用いている。

この『折紙集』は、バラバラになった聖教次第の中に混じっていた分で、その聖教の整理は終了しているが、修補が未了であり、また欠葉部分の今後の出現を待っている写本類中にある。

こうした聖教類は修行者が自行用として記していたもので、この『四度用意諸切集』でも末尾に「堅ク禁ス他見テ」とあり、寺院でも認められた弟子以外には簡単に披見させているものではなかった。

ム―私

（外題）
四度用意諸切紙集 性盛ム集レ之

四度支度

一 花備様之事

二 五躰投地礼拜事

三 神分等之事

四 四度本尊并两祖懸様事

五 物忌之事

六 四度加行日數之事

七 十八道本尊之事

八 諸流四度次第分別事

九 十八道六法之事

已上九通④私云憲深士二代行齋院澄恵ノ附法……報恩院源雅僧正傳也

一花備様之事^①
② 加行案内申時
 此一紙与之

① 「花備様之事」①ニハ「華備様」トアリ。
 ② 「加行案内申時」①ニハ此ノ割書無ク「隆濟
 記」トアリ。

髻—鬢

兼—承

等—等

兼—承

一花ハ者用レ櫛也 先ツ二度ス、ギテ三度目ニス、ギナ
 ガラニ前^③ニ二器^④ヲ並ル也 サテ先ツ花葉ニツヲチギリ重
 子^テニ折^テスヘ 末ヲハ闕伽ノ器ニ入^レ水少^⑥入ル、也 葉^⑦ノ本^⑧
 切ヲハ塗香器ニ入^レ敷上ニ香ヲ捻^シリカクル也 花四房ヲ花
 髻ノ器ニ入^ル、也^⑨

房ヲ本尊ノ方エ向^カフル也^⑩ 但シ兼仕沙汰^⑪ハ之ヲ者
 如^シ御修法等ノ時^⑫一 洗^シ音ヲガラメカシテ高声ニスル也
 自兼仕等ノ時^ハ如^シ兼仕ノ沙汰ノ高声等^⑬ハ思^フシカラ
 ズ神妙ノ沙汰尤^キ宜者也 此ノ条師口也

已上^⑮ 濟^⑯記^⑰
⑮ 幸心降

或^カ幸心源雅僧正^ニ問云 花ノ備へ様如何^シ 僧正答云
 兼仕役^ナナルカ故^ニ一向^⑱是^ラ不^レ知^⑲ 重^テ問如何^様カ

③ 「二前」①ニハ「二處」トアリ。
 ④ 「二器」①ニハ「六器」トアリ。
 ⑤ 「先」①ニハ無シ。
 ⑥ 「少入ル、也」①ニハ「少シ添へ入ル、
 ナリ」トアリ。
 ⑦ 「葉」①ニハ無シ。
 ⑧ 「本ノ切ヲハ」①ニハ「本ト方ヲハ」ト
 アリ。
 ⑨ 「花髻ノ器ニ入ル、也」①ニハ「花鬘ノ
 器ニ入レ」トアリ。
 ⑩ 「云」①ニハ無シ。
 ⑪ 「沙汰ハ之ヲ者」①ニハ「沙汰ノ時」
 トアリ。
 ⑫ 「時」①ニハ無シ。
 ⑬ 「等」①ニハ無シ。
 ⑭ 「思シカラズ」①ニハ「然ルヘカラ
 ス」トアリ。
 ⑮ 「濟」①ニハ「隆濟」トアリ。
 ⑯ 「是不レ知」①ニハ「不レ知レ之云」
 トアリ。

ム―私

亼―事

尔―爾

西酉―醍醐

体―體、拜―拝

两―両、膝―膝

左―左

自^①兼仕^②ノ義座敷^③ノ御時^④ハ可^⑤レ有^⑥○也^⑦ 僧正^⑧ノ仰^⑨云^⑩ 濟^⑪ムノ

如^⑫ト云^⑬ 自^⑭兼仕^⑮ト云^⑯ 亼^⑰而^⑱私^⑲ノ義也^⑳ 是^㉑不^㉒レ可^㉓レ有^㉔事也^㉕

仁^㉖和^㉗寺御室^㉘ノ様仁助^㉙ノ之御定^㉚又^㉛尔也^㉜ ⑤已上イ本二紙

㉑

於^㉞西々書^㉟之 性盛頼心房

二ニ五体投地礼拜事^㊱ ②⑤ 礼拜日記傳授
時ニ是ヲ示ス也

两ノ手ニ摺^㊲レ珠^㊳ヲ先^㊴ツ右ノ膝^㊵ 次^㊶ニ左ノヒザヲツキ其ノ後

两ノ手珠ヲ不^㊷レ放^㊸タ 手ヲ仰^㊹ゲテ手ノ背^㊺カニテ地^㊻ヲ押^㊼シ 两ノ手

ノ中程^㊽ヘ首^㊾ヲ付^㊿ル也

當[㋀]ハ左[㋁]ニテ記[㋂]ススルヲ 松[㋃]―地[㋄]―ニハ[㋅]右[㋆]ニテ記[㋇]スル也

惣[㋈]ノ摺[㋉]レニ珠[㋊]ヲ有[㋋]ニ流[㋌]ノ不同[㋍] 當[㋎]流[㋏]ハ两[㋐]手共[㋑]ニ珠[㋒]ヲ懸[㋓]ケ中指[㋔]ニ

達[㋕]磨[㋖]ハ右[㋗]緒留[㋘]ハ左[㋙] 松[㋚]―モ[㋛]懸[㋜]ニ[㋝] 两[㋞]ノ中指[㋟]ニ同[㋠]也[㋡] 達[㋢]磨[㋣]ハ右緒留[㋤]ハ左

以[㋥]レテ之[㋦]ヲ為[㋧]レ異[㋨]也[㋩] 地[㋪]―ハ懸[㋫]ニ[㋬]两[㋭]ノ頭指[㋮]ニ達[㋯]磨[㋰]ハ右緒留[㋱]ハ

①「可^㉑レ有^㉒○也」 ④ニハ「有^㉓ルベキ事ナリ」トアリ。

⑧「而^㉔」④ニハ「一向^㉕」トアリ。

⑯「是^㉖不^㉗レ可^㉘レ有^㉙事也」④ニハ「有^㉚ルベカラサル事ナリ」トアリ。

⑲「又^㉛尔也」④ニハ「亦^㉜尔ナリ」トアリ。

㉑④ニハ此ノ間ニ「四度用意諸切紙集」テハ、

「油器ヲ清ムル事 餘流ハ大途七日ツ、ナリ 當^㉒流ハ不^㉓レ然^㉔油器ハヨゴレ次オ

花^㉕シボミ次第ナリ」トアリ。

此^㉖レハ是ノ「四度用意諸切紙集」デハ、

第九ノ「十八道六法之事」ノ終リニ付

加サレテイル。

㉑「於西々書之」 ④ニハ「本云 於上西酉

書写之」トアリ。

㉑此ノ二行割書④ニハ無シ。

㉒「首^㉓ヲ付^㉔也」 ④ニハ「頭^㉕着^㉖ル也」ト

アリ。

㉑「當^㉒ハ」④ニハ「當^㉓流^㉔ハ」トアリ。

㉑「左^㉒ニテ」④ニハ「左^㉓手^㉔ニテ」トアリ。

㉑「右^㉒ニテ」④ニハ「以^㉓レ右^㉔ヲ」トアリ。

㉑「珠^㉒ヲ懸^㉓ケ中指^㉔ニ」④ニハ「懸^㉕ニ^㉖珠^㉗ヲ於中

指^㉘ニトアリ。

㉑送り仮名「ル」④ニハ「寸ハ」ト

アリ。寸一時。

㉑「同也」④ニハ「者^㉒同^㉓ナレ」トアリ。

㉑「達^㉒磨^㉓ハ右」④ニハ「右^㉔ニシ^㉕達^㉖磨^㉗ヲ」ト

アリ。

㉑「緒留^㉒ハ右」④ニハ「左^㉓ニシ^㉔緒留^㉕ヲ」ト

アリ。

㉑「以^㉒レ之^㉓ヲ為^㉔レ異^㉕也」④ニハ無シ。

㉑「右」④ニハ「左」トアリ。

龙也^⑤ 三流共ニ摺ルニ珠^⑥弟子ヲハ掌ノ中ニスル也 又仰ニ^⑤「左」④ニハ「右」トアリ。

龙ノ手一ヲ覆ニ^⑦右ノ手一ヲ也 兩ノ中指ニカクル「ハ佛界ノ火

大增上縁ト成テ生界ノ火大ヲ増勝ナラシメ生佛ノ火大和

合ノ百八煩惱燒盡スル〇也^⑧ 次兩頭指ニ懸ル事ハ火水風

何レモ有ニ^⑨「能破ノ義」尔也^⑩ 其ノ中ニ風力猶勝タリ火水

ニハ有ニ^⑪殊^⑫處一今取ニ強勝ヲ坎二界ノ風合「准」上ニ意

教流ニハ^⑬右ノ風ト左ノ火トニ懸ル也^⑭ 是ハ佛界増勝風^⑮

力ヲ借テ^⑯生界劣弱火ヲハ吹キ起ス也 達磨ノ左右ハ隨レ記レ

数ヲ也 右覆龙仰「ハ 諸佛ノ大悲遍ク覆ニ^⑰衆生ニ之意坎

但翻ニ小野流ニ廣澤方ニハ^⑱右ヲ仰ケ覆レ龙也 所由可レ尋

レ之

記數左右事

數—數

記レ數差別ノ義智恵ノ能也 惠門ノ記數理盡セリ 又左

手記レ數非レ無ニ^⑲所由一 左右ノ手如レ次生佛二界也

⑤「義」④ニハ無シ。

⑥「尔也」④ニハ無シ。

⑦「其ノ中」④ニハ「就」中」トアリ。

⑧「殊處」④ニハ「殘處」トアリ。

⑨「借テ」④ニハ「以テ」トアリ。

⑩「隨レ記レ數ヲ也」④ニハ「隨ニ于記スルニ數ヲ也」トアリ。

⑪「衆生」④ニハ「衆生界」トアリ。

⑫「可レ尋レ之」④ニハ「可尋也」トアリ。

⑬「記レハ數」④ニハ「記レハ數者」トアリ。

弁一辨

佛界平等前^{ニハ}無^三梯橙ノ義^{④⑤}一 所作已弁也^{④⑥} 生界ハ差別^ニ行位ノ不同^{アリ} 五十四位階級是也

④⑤ 「梯橙義」①ニハ「杼磴ノ義」トアリ。
④⑥ 「所作已弁也」①ニハ「所作已辨ノ故」トアリ。

五十四位事

无一無

攝^ノ等妙二覺^ヲ十地^ニ開^{④⑦}善根^{④⑧}一 婬頂忍^一爲^ニ五十四位^ト三賢^ニ善根^ト付^レ之有^ニ本有修生^一 記^レ數之時不^レ越^ニ達磨^ト緒^{④⑨}留^ト五十四位^{上下}スル事^ハ表^ニ流轉^ト還滅^ト隨緣成妄^モ離^{⑤①}過顯德^モ不^レ離^ニ煩惱^ヲ合^ノ百八煩惱也^{⑤②} 此等ノ義辺ハ修生顯得^{⑤③}之前ノ沙汰也 無所作ノ五十四遍^ハ即本有^ノ五十四位也 本有修生^ハ沙汰^{スルハ}无明未盡ノ位也^{⑤④} 是復百八煩惱也 言語盡竟心行亦寂可^レ思^レ之^云

④⑨ 已上イ本一紙

⑤③

⑤③ ①ニハ奥ニ「報恩院前大僧止源雅在判」トアリ。

⑤① 「本有修生」①ニハ「修生本有」トアリ。
⑤② 「是復」①ニハ「是又」トアリ。

④⑨ 「五十四位」①ニハ「五十四遍」トアリ。
⑤① 「修生顯得」①ニハ「修生修顯」トアリ。

④此ニ行イテ
⑤三ニ神分等 十八道傳授ノ時与レ之

⑤四「三神分等 十八道傳授ノ時与レ之」①ニハ無シ。

神分等^⑤ 如意輪ニ付テ祈願ノ詞連レ之
余ノ可ニ准知一之

烏^④爲^④ 烏メニ令法久住利益人天護持弟子悉地圓滿ノ

⑤摩訶毘盧遮那宝号
⑤觀自在并
⑤介手并 丁

⑤觀自在并
⑤介手并 丁

奉^レ始^メ外金剛部金剛天等^④三^④界^④有^④天王天衆大日本

國王城鎮守諸大明神天照太神八幡大菩薩六十余州ノ大

小神祇殊ニ別^④當所鎮守^④清滝權現^④長尾ノ天神^④部

類眷屬護持佛子當年屬星本命元辰本命曜宿北斗七ツ星

諸宿曜等炎魔法王泰山府君^④司命司祿^④冥官冥衆

當年行役流行神等乃至自界他方ノ權実ニ類併^④為^④法

樂莊嚴離業得道^④一切神分^④

般若心經 丁
大般若經名 丁

為^④三^④國傳燈ノ諸大師等淨佛国土成就衆生普賢行願皆

令満足^④

⑤「如意輪ニ付テ祈願ノ詞連レ之余ノ可ニ准知一之」①ニハ「附ニ于如意輪ノ祈願ノ詞連之余ノ可ニ准知一者也」トアリ。

⑤「觀自在并」①ニハ「觀自在菩薩名」トアリ。

⑤「介手并」①ニハ「金剛手菩薩名」トアリ。

⑤「大日本國王城」①ニハ「惣ノ大日本國王城」トアリ。

⑤「八幡大菩薩」①ニハ「八幡大菩薩寺」トアリ。

⑥「行役流行神等」①ニハ「行役流行神等」トアリ。

烏爲
井菩薩
介金剛
所
國、余餘
滝瀧、祇祇
屬屬
炎焰、冥冥
權權

广可一摩訶

广可ヒルサナ仏名 丁
観自在菩薩⁶¹名

⁶¹「名」①ニハ無シ。

④是ハ田舎⁶²テハ不レ可^レ用イ本
奉^レ始^二三^一大聖靈⁶³貴賤靈等皆成佛道ノタメニ

⁶²「三^一大聖靈」①ニハ「三^一代聖靈」トアリ。

广可ヒルサナ宝号 丁
観自在并⁶⁴名

④イ本為^二護持法王^某甲息災延命増長福壽二世大願成
就満足^一

广訶ヒルサナ仏名 丁
観自在并⁶⁵名

為^二聖朝安穩天下泰平^一

广力ヒルサナ⁶⁶宝号 丁
観自在并⁶⁷名

⁶³「宝号」①ニハ「佛名」トアリ。
⁶⁴「名」①ニハ無シ。

④イ本為^二一天四海安穩泰平風雨順時五穀成就万民豊
楽^一

广訶ヒルサナ仏名 丁
観自在并⁶⁸名

為^二慈父悲母息災安穩増長福壽二世大願成就満足^一

⁶⁵「成就満足」①ニハ「成就円満」トアリ。

广可ヒルサナ⁶⁹宝号 丁
観自在并⁷⁰名

⁶⁶「宝号」①ニハ「佛名」トアリ。
⁶⁷「名」①ニハ無シ。

為^二伽藍安穩興隆仏法^一

广力ヒルサナ⁷¹宝号 丁
観自在并⁷²名

⁶⁸「宝号」①ニハ「佛名」トアリ。
⁶⁹「名」①ニハ無シ。

教—教—效

往—往

仰^{⑦⑦}乞^フ真言教主大日如来两部界會諸尊聖衆外金剛部金

剛天等 殊^ニ別^{テハ} 本尊聖者大聖如意輪觀自在尊蓮花

部中諸大眷屬各還^{⑦①}念^シ往昔ノ大悲本誓^一

降^{⑦②}臨影^三向此ノ瑜伽ノ道場ニ哀^ニ愍納^三受^シ所設ノ供具^一

知^ニ見^シ昭^ニ覽^{シテ} 無^ニ二ノ信心^一ヲ現世當生ノ一々ノ願念成就

圓滿^{セシメンガ}為^ニ

廣可ヒルサナ宝号^丁
南無觀自在并名^丁

金剛手并名^丁
两部界會諸尊聖衆^丁
外金剛部金剛天等^丁

為^{メニ}二乃至法界平等利益^一

廣詞ヒルサナ^{⑦③}宝号^丁
金剛手并^{⑦④}名^丁

胎—台、護—言

季—季—年

十金胎護抄云 神分ノ金子祈願ノ金ト古来ヨリ名目ヲ仕^{⑦⑤}ヒ

来^ル也 而^ルヲ誤^{⑦⑥}祈願ノ金ヲ七^{⑦⑦}ツ金ト近季云ヒ来^{⑦⑧}ル事ノ

外ノ誤也 又晴^レノ時曼荼羅供等ニ祈願ノ時念誦ヲ摺^{⑦⑨}ル

古近俱^ニ無^レ之是^モ誤^{⑧⑩}摺^ニ念誦^一ヲ云フ更^ニ有^リ必不^レ可^レ用^ト

⑦⑦「仰乞」④ニハ「仰」ト「乞」ノ間ニ、
朱筆ニテ「承」ト別本ニ加エラレテイ
ルコトヲ示ス。

⑦①「各」④ニハ「各々」トアリ。

⑦②「降臨」④ニハ「降臨」トアリ。

⑦③「宝号」④ニハ「佛名」トアリ。

⑦④「名」④ニハ無シ。

⑦⑤「仕ヒ来ル也」④ニハ「使ヒ来ル也」ト
アリ。

⑦⑥「誤」④ニハ無シ。

⑦⑦「七ツ金」近季云ヒ来ル也」④ニハ「七ツ
金」近年云ヒ来ル」トアリ。

「七ツ金」ニツイテハ、成田山仏教研究
所紀要第四十六号六三頁参照。

⑦⑧「也」④ニハ無シ。

⑦⑨「時念誦摺」④ニハ「處ニテ金珠ヲ
摺ル事」トアリ写誤カ。

⑧⑩「誤」④ニハ「誤而」トアリ。

云
已上

⑧已上イ本一紙

小祈願

普供養摩訶毘盧遮那佛

普供養本尊界會

⑧イ本此一行無

两部界會 諸尊聖衆 外金剛部

護法天等 所設供具 哀愍納受

護持弟子 消除不祥 增長福壽

無邊^{⑧イ本已下二句无}所願 決定円滿 天下法界

平等利益

所
|
所

廻向

盱修功德 廻向三宝願海 廻向三界天人

廻向一切神等 廻向貴賤靈等⁸¹⁾ 所修功德⁸¹⁾

廻向聖朝安穩 廻向伽藍 廻向天下⁸²⁾

廻向法界 廻向無上大菩提⁸⁴⁾

(以下異本デハ坤四) 結願ノ詞云 事ウ抄此ハ加行時用之

一七箇日ノ行法ノ結願在⁸⁶⁾此座ニ 但シ大願満足ノ日⁸⁷⁾マテ

毎日ノ行法不^レ可^二懈怠^一日來間^{ヒコロノ}タ⁸⁸⁾降臨^{シ玉フ}所⁸⁹⁾之諸尊

聖衆早ク雖^レ令^ム還^ニ着^一本宮ノ本座^一至^ニマテ大願満足之

日^一不^レ闕^二日々之影向^一垂^ニ加被^一給^{ヘキ}者也 抑⁹¹⁾三密

修行ノ之處滅罪生善ノ之砌^{ナレハ}冥衆定降臨影向^{シ玉フ}

外金剛部々々等神分如例⁹²⁾

ラシ

81) 「所修功德」④ニハ無ク、朱筆ニテ更ニ異本ニアリトス。

82) 「伽藍」④ニハ「伽藍安穩」トアリ。「天下」④ニハ「天下法界」トアリ。

83) 「廻向法界」④ニハ「廻施法界」トアリ。

84) 「廻向法界」④ニハ「廻施法界」トアリ。

85) 此ノ一行④ニハ「是ハ加行ノ時用之出ニ事密抄ニ」ヲ二行割書ニシテアリ。

86) 「在此座ニ」④ニハ「在此座ニ」トアリ。

87) 「大願満足ノ日マテ」④ニハ「至マテ大願満足ノ日ニ」トアリ。

88) 「降臨シ玉フ所」④ニハ「所降臨シ玉フ」トアリ。

89) 「不闕二日々之影向」④ニハ「不レ缺二日月ノ影向」トアリ。

90) 「垂レ加被ヲ給ヘキ者也」④ニハ「可垂ニ玉フ加被ヲ者也」トアリ。

91) 「抑」④ニハ「抑々」トアリ。

92) 「外金剛部々々等」④ニハ「外金剛部等」トアリ。

結願作法

行法如^レ常ノ但^ニ至^テ神分ノ處^ニ如^レ例金^③三^④打^レ之ヲ不^レ用

ニ神分^①五悔行^②之至^ニ後供養ノ闕伽之後^ニ取^レ珠^⑤ヲ

若^⑥有^ハ香^⑦呂^⑧同^ク取^レ之^⑨金^⑩三^⑪打^レ之^⑫

一七ヶ日ノ之間奉^ル勤行^⑬々々法ノ結願當^ニ此ノ座^ニ然^レハ

者奉^レ始^ニ本尊界會^⑭蓮花部中諸眷屬等^⑮成^⑯就^⑰所願^⑱一

本曼荼羅ノ位^⑲可^キ下^⑳令^㉑還^㉒着^㉓給^フ者^㉔也

抑自^㉕開白ノ始^㉖至^㉗結願ノ今^㉘定^㉙所降臨影向^㉚シ下ラン外

金剛部金剛天等奉^レ始^ニ三界有^㉛ノ天衆神祇法樂莊嚴威

光倍増^㉜ノ為^㉝ニ諸神分^㉞般若心經^㉟丁^㊱大般若經名^㊲丁^㊳

次々ハ如^①例神分祈願等^②○次^③後鈴等如^④例

後時祈念カケヌ結願^⑤用也後時祈念^⑥カケテ結願

スルニハ^⑦事ウ抄^⑧宜^⑨キ也

御本云弘長元年九月十七日^⑩於報恩院々々僧正御房

御本^⑪文改^⑫私以^⑬朱^⑭切^⑮句加^⑯點^⑰筆

⑨③「至^ニ神分ノ處^ニ」④ニハ「至^ニ于^ニ神分ノ處^ニ」

⑨④「二^ニ丁^ニ打^レ之^ニ」④ニハ「二^ニ打^レ之^ニ」トアリ。

⑨⑤「後供養」④ニハ「于^ニ後供養^ニ」トアリ

⑨⑥「若^ハ有^ハ香^⑦呂^⑧同^ク取^レ之^⑨」④ニハ「若^ハ有^ハ香^⑦爐^⑧取^レ之^⑨」トアリ。

⑨⑦「二^ニ丁^ニ」④ニハ「一^ニ打^ニ」トアリ。

⑨⑧「勤行」④ニハ「勤^⑩行^⑪」トアリ。

⑨⑨「成就^⑫」④ニハ「成就^⑬」トアリ。

⑨⑩「所願」④ニハ「諸願」トアリ。

⑨⑪「本曼荼羅ノ位^⑲可^キ下^⑳令^㉑還^㉒着^㉓給^フ者^㉔也」④ニハ「可^キ令^㉕還^㉖著^㉗本曼荼羅位^㉘者^㉙也」トアリ。

⑨⑫「至^ニ于^ニ結願ノ今^㉘」④ニハ「迄^㉙結願ノ今^㉚」トアリ。

⑨⑬「諸神分^㉞」④ニハ「一切神分^㉟」トアリ。

⑨⑭「用也」④ニハ「用^㊱之^㊲」トアリ。

⑨⑮「事ウ抄」④ニハ「事密抄」トアリ。

⑨⑯「於報恩院々々僧正」④ニハ「於報恩院源雅僧正」トアリ。

⑨⑰「文改」④ニハ「校點」トアリ。

⑨⑱「頼」④ニハ「中性院性盛頼心房」トアリ。

四二 四度本尊并兩祖懸樣圖

⑩隆源僧正作
四度土代ノ通也

拜一拝

十八道加行事 礼拜加行

一本尊并道場料理用心事

左一左

本尊如意輪 中央 左右ノ脇ハ者大師 本尊ノ右方 尊師 本尊ノ左方 御影懸レ

華一華、華

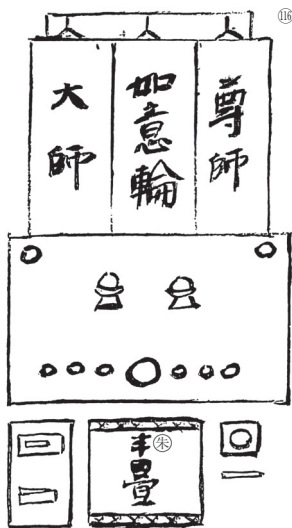
之其ノ前小壇或机一脚立レ之其ノ上闕伽器一前 華 火舎

一香 花 瓶二 ⑪ 花 左右ノ燈臺二本 供 壇前半帖一枚

敷レ之 左ノ脇机ノ上ニ理趣經 札幟又置レ之 ⑬ 或燒香

右ノ邊打鳴一口 ⑭ 在坐 鐘木置レ之 以レ留示レ之

經一經、經
裏一裏、裏
邊一邊、邊
品一圖



理趣經ト札幟一重置之

⑩「隆源僧正作四度土代ノ通也」二行割書④ニハ無シ。

⑩「十八道加行事」此ノ一行④ニハ無シ。

⑪「花」④ニハ「枝」トアリ。

⑫「半帖」④ニハ「半疊」トアリ。

⑬「或燒香」④ニハ「或名香」トアリ。

⑭「在坐」④ニハ「在机」トアリ。

⑮「示レ之」④ニハ「可レ示レ之」トアリ。

⑮図④ニハ瓶、燈、打鳴、鐘木、名香ノ名称ヲ加エテイル。

籠—籠

此ノ外用意具 池桶 關伽桶^{⑪⑦} 花籠 香箱 火打^{⑪⑧}

硫磺 灯心^{⑪⑨}等

一佛界ハ以レ右為レ本 衆生界ハ以レ左為レ上 仍大師^{⑪⑩}ヲ

本尊ノ右方ニ奉レ懸レ之

⑪⑦「杓」①ニハ「トアリ」。

⑪⑧「火打」①ニハ「燧笛」トアリ。

⑪⑨「灯心」①ニハ「燈炷」トアリ。

⑪⑩「仍」①ニハ「依テ之」トアリ。

一十八道壇畧

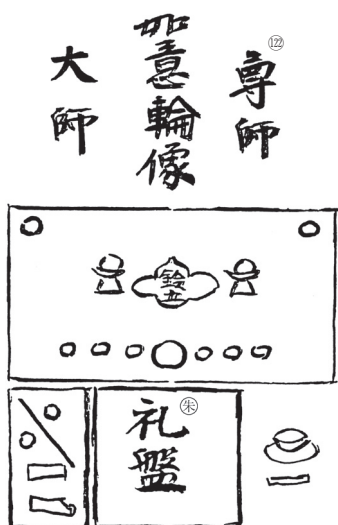
初行 正行以上

加行^{⑪②}為レ金ノ十八道
法修之

共ニ^{⑪③}同也^{⑪④}

⑪②「為レ金」①ニハ「為メニ金剛」トアリ。

⑪③此ノ図①ニハ檣枝、念誦次オノ名称ヲ
加エテイル。



一金剛界壇畧¹²⁴

初行 正行以上

加行¹²⁴為レ台
金修

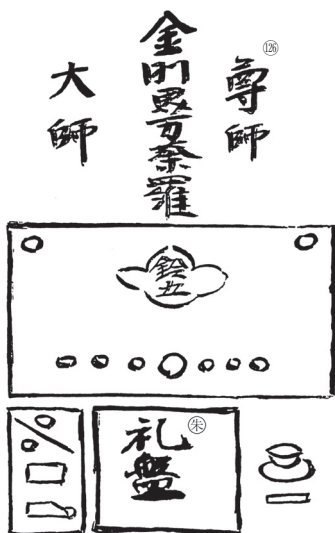
共ニ¹²⁵〇同ナリ¹²⁶

¹²⁴「金剛界壇畧」④ニハ「金界壇圖」トアリ。

¹²⁴「金修」①ニハ「界曼荼羅修之金」トアリ。

¹²⁵「共同」④ニハ「亦同」トアリ。

¹²⁶此ノ図④ニハ「壇前皆同前」トシテ、
図ノ書込ヲ消略シテイル。



一一幅ハ無ニ子細一若無ハ本尊一者ツ、キ兩界可レ用レ之¹²⁷

¹²⁷「幅」④ニハ「幅」トアリ。
¹²⁸「ツ、キ兩界可レ用レ之」④ニハ「可レ用レ續ケ兩界一也」トアリ。

一胎藏界壇畧

初行 正行

¹²⁹金界万荼羅徹レ之台界ニ可ニ懸替ニ其外金界且ニ不レ可レ異者ノ也

¹²⁹「金界万荼羅徹レ之台界可ニ懸替」④ニハ「徹ニ金界曼荼羅ヲ可レ懸ニ代ニ胎界」トアリ。

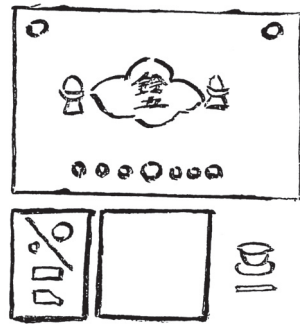
旦一壇、壇

ホー等

⑫ 已上イ本一紙

一護摩壇ノ畠ハ者如ニ次第一本尊ハ不動ヲ懸替ル也仏供ホノ備ヘ様ハ中瓶ノ左右ニ如レ畠⑬并ル也

胎藏界曼荼羅
尊師
大師



⑬ 「④ニハ「胎藏界曼荼羅」ノ左右ニ図ノ如ク「尊師」、「大師」トアツテ、「壇」圖ハ同前ノ故ニ畧ス」トアリ、図ヲ消略シテイル。

⑭ 「并ル」④ニハ「並ル」トアリ。

恩ー恩

報恩院ー幸心院

報恩院隆源有ニ御清書ニ根来寺中性院
上ノ西酉行樹院於ニ閑窓ニ書レ之 性盛 頼心房

⑮ 「根来寺中性院」④ニハ「被レ遣ニ于根来寺中性院聖融ニ御本也」トアリ。

⑯ 「行樹院於ニ閑窓ニ書レ之」④ニハ「於ニ行樹院閑窓ニ書写之」トアリ。

五^ニ物忌事^⑬

⑬「物忌事」①ニハ「物忌之事」トアリ。

宝—寶

惣—總—総

三宝院一代六條ノ八幡ノ氏子ニ御座ス時彼宮ノ忌ニ應シテ

二親^{五十日} 師匠^{五十日} 此ノ外兄弟以下ハ惣^⑬而無^⑭レ之

也 師弟^{ナリト云}ニ外意^{ニ任スル者}者也

報恩院源雅僧正御遷化ノ時^モ 御嫡弟ノ外意^{ニ被^レル}、為^レ

任^セ也

⑬「意^{ニ被^レル}、為^レ任^セ也」①ニハ「被^レ任^ニ意^ニ也」トアリ。

四度中間^ニ行者休^ム時尅^⑬之事

⑬「休^ム時尅^ニ之事」①ニハ「休息時刻迄」トアリ。

四度土代云 加行^并初行必^ス可^ニ相續^一ス 次ノ百日正行

或暫^ク閣^レ之^⑬常ノ事歟

⑬「常ノ事歟」①ニハ「常ノ事乎」トアリ。

例時ノ事

登礼盤^モ 礼從^⑭回至果ノ義也

礼懺^{上十五日^⑭金剛^⑮礼懺^⑯ 下十五日^⑭台藏^⑰礼懺^⑱} 一卷

尊勝陀羅尼^{三遍} 四智^⑭ 心畧 不動

⑭「金剛礼懺」①ニハ「金界」トアリ。
⑮「台藏礼懺」①ニハ「台界」トアリ。
⑯「三遍」①ニハ「三卷」トアリ。
⑰「四智」①ニハ「四智讚」トアリ。

遍—返—反

廻向<sup>上ハ金
下ハ胎</sup>

副物<sup>光明真言廿一反
變染咒廿一反</sup>

朝例時

滝—瀧

從果向^①回^②ノ尊ニ香花ヲ備テ供シテ下札盤^③於^④「平座」讀レ之也^⑤從果向^⑥回^⑦ノ尊内証ニ任セテ讀ム也

九條錫杖^{切声}

理趣經<sup>⑧勸請
大師^⑨</sup>

宝篋印陀羅尼^{七反}

如意輪大咒^{七反}

慈救呪^{反^⑩}

言—護

開白^⑪并結願佛供事^⑫十金胎言

熨—熟、杯—坏

一 開白^⑬ハ初夜ノ時佛供^⑭熨^⑮調^⑯ニ杯^⑰本尊大師尊師各二杯合六杯

一 灯明二燈也但後夜時^⑱ヨリ一燈也^⑲

一 汁菓子^⑳ハ護摩ノ時ヨリ備レ之也^㉑委^㉒ハ者如^㉓土代^㉔

无—無

一 佛供初後夜ノ二時一向無レ之^㉕松^㉖ハ後初^㉗粥^㉘

尔—爾—然

一 每日日中^㉙ハ洗米也^㉚私云本義如此^㉛雖尔於^㉜本寺^㉝近來^㉞ハ洗米時常^㉟生米用レ之也^㊱

一 大師尊師ノ所作供燈^㊲ハ四度供^㊳ニ初行正行皆以可^㊴レ

⑭「從果向回ノ尊内証ニ任セテ讀也」①ニ

ハ「住ニ從果向回ノ尊ノ内證ニ而讀ム義也」トアリ。

⑮「勸請」①ニハ「勸請ノ句」トアリ。

⑯「佛供事」①ニハ「佛供等事」トアリ。

⑰「二杯」①ニハ無シ。

⑱「但」①ニハ無シ。

⑲「二燈也」①ニハ此ノ後ニ「松—後夜粥也イニ無之次才ニ出」ト二行割書デアリ。

⑳「委ハ者」①ニハ「委ハ」トアリ。

㉑「粥」①ニハ「粥也」トアリ。

㉒「生米用レ之也」①ニハ「生米ヲ用ユ」トアリ。

㉓「所作」①ニハ「所供」トアリ。

㉔「四度供」①ニハ「四度共」トアリ。

㉕「可レ准ニ拜礼」①ニハ「結願ニ也」トアリ。

㉖「二ハ」可レ准ニ「礼拜ノ時ノ開白結願ニ也」トアリ。

拜一 拝

准二 拜礼^⑮ ○開白^⑯ニ結願^⑰也^⑱ 此ノ一行以下本書ニイ本

一 結願ノ時^⑲ニハ 熟調二燈如ニ開白^⑳ 大師導師一所作同レ之

一 結願ノ時^㉑ハ必可ニ日中ノ時^㉒ナル

^⑮「結願ノ時ハ必」①ニハ「時刻必ス」トアリ。

道場料理ノ事

四度土代畠并注畢可レ任レ之^㉓

一 四度間柄香呂不レ置レ之也^㉔ 松橋置レ之

^⑮「四度土代畠并注畢可レ任レ之」①ニハ「可レ任ニ四度土代圖并注ニ」トアリ。
^⑮「柄香呂不レ置レ之也」①ニハ「不レ置ニ柄香呂」トアリ。

護摩供等之事

灯一 燈

開白結願佛供灯明如前^㉕ 十金胎護ノ如ト云也

但シ汁菓子^㉖ 田菓子木菓子ノ間種用之^㉗地^㉘又ニ種用レ之^㉙當^㉚大途^㉛田菓子用之

中間ノ日中ニハ 米佛供也^㉜ 汁菓子無レ之^㉝

宰一 寧

後夜^㉞ハ粥二杯^㉟ 飯入レ水用也 初夜^㊱ハ佛供無レ之^㊲ 丁宰^㊳ニハ修セハ之^㊴

以上一 已上

何レノ流^㊵モ供物可ニ丁宰^㊶ニス^㊷ 以上四度随一ノ護摩ノ時事也

^⑮「供物可ニ丁宰ニス」①ニハ「供物等不レ可レ為ニ疎略ニ也」トアリ。

^⑮「護摩供等之事」①ニハ「護摩供物等事」トアリ。
^⑮「田菓子木菓子」①ニハ「木菓子田菓子」トアリ。

^⑮「地」①ニハ「他」トアリ。

^⑮「當」①ニハ「當流ハ」トアリ。

^⑮「田菓子」①ニハ「田草子」トアリ。

^⑮「汁菓子」①ニハ「汁草子」トアリ。

神供事

一七日ノ中ニ初開白 中四日 後八日ナラハ七日夜

可レ有レ之正行ノ時ハ句ニケ 度宛也 ⑩十日ニ一度ト云也本イ

⑩「宛」①ニハ無シ。

續―続

作壇破壇事

初行結願ノ夜相續ノ正行開白有レハ之初行結願ニ無破壇^⑩

也 又正行ノ開白ニ無作壇^⑩ 正行結願ノ時破壇必可レ

有レ之已上一紙^⑩ イ本

⑩「無破壇也」①ニハ「無破壇法」トアリ。

⑩「無作壇」①ニハ「不レ為作壇法也」トアリ。

⑩「破壇必可レ有レ之」①ニハ「必可レ為破壇作法也」トアリ。

於上酉西行樹院書レ之 性盛頼心房

數―数

六 四度加行日數事

報恩院源雅
僧正存判

礼拜加行此一行イ无^⑩ 十八道加行ヲ号ニ礼拜加行ト

五十箇日或廿五日日本イ^⑩ 酉西ハ百日

⑩「十八道加行ヲ号ニ礼拜加行ト」①ニハ無シ。

十八道初行正行

初行七日開白結願ノ作法有レ之 酉々モ七日

正行廿五日開白結願ノ作法有レ之 酉々ハ百日

金剛界加行

十八道法ラ行ス廿五日開結同前 酉々ハ百日

金剛初行正行^⑪

初行七日開結同前 酉西モ七日

正行廿五日開結同前 酉西ハ百日

胎藏界加行

金剛界法ラ行ス廿五日開結同前 酉西ハ百日

胎藏界初行正行^⑫

⑪ 「金剛初行正行」④二ハ「同初行正行」トアリ。

⑫ 「胎藏界初行正行」④二ハ「同初行正行」トアリ。

初行^ハ七日^{開結} 西酉^モ七日

正行^ハ廿五日^{開結} 西酉^ハ百日

護摩^{言ハ}加行^{ニハ}無^キ故^⑬胎藏法^ヲ
加行^ニ用事無^レ之

七日^{開結} 西酉^ハ百日

⑬「胎藏法^ヲ加行^ニ用事無^レ之」①ニハ
「無^レ行^ニスル」胎藏^ノ法^一也」トアリ。

灌頂護摩

七日^{開結} 西酉^ハ百日

一灌頂^⑭已後^⑮之千座^ハ者 ○○○西酉^ハ千日護摩^ヲ灌頂^ハ
⑮西酉之千日言ハ代リ也本イ
或本云灌頂已後千座者

已後修^⑯之擬^⑰彼^⑱レニ千座^ヲ用欵

是^モ可^レル也

加行者指南^⑲○小阿闍梨^仁是^ヲ遣^ス云^⑳

⑲已下一行イ本在 園邊ノ上ニ
⑳之 已上イ本 一紙云

㉑報恩院源雅僧正西西山之日數尾州万徳寺エ

御免許之通者百日於五十日^㉒御免許之今又

二百日^㉓七四度^於配畢

天正十七年己丑三月廿一日

法印性盛頼心房

⑭「灌頂已後之千座者○西酉^ハ千日護摩
灌頂已後修^レ之擬^レ彼^レニ千座^ヲ用欵」①
ニハ「灌頂已後ノ之千座^ハ者西酉ノ千日
護摩之代也」トアリ。

⑮此ノ後記①ニハ無シ。

七二十八道本尊事

弥彌

弘法大師ハ以ニ大日一為ニ本尊ト真雅ハ以ニ弥陀一為ニ本

¹⁷⁶「為ニ本尊一也」①ニハ「為ニ本尊一」トアリ。

証證

他門ノ傳教ハ以ニ釋迦一為ニ本尊ト智証ハ以ニ不動一為ニ本

尊ト

三井寺ノ慶範依ニ如意輪一云西々ノ源仁ハ以ニ大日一十八

道ヲ授下フ聖宝一也云石山内供モ延命院モ付ニ如意

輪¹⁷⁷十八道ノ次第ヲ作リ下フ皆ナ依ニ儀軌ニ也云

尔爾

金輪軌云云¹⁷⁸属累品云尔時世尊告テ觀自在菩薩摩訶薩ニ言曰¹⁷⁹

衆衆、屬屬

我今以ニ此ノ一切衆生ヲ付ニ屬ス於汝ニ應下當ニ住ノ大慈¹⁸¹

應応

悲¹⁸²觀察守護シ施中与ス勝願上常ニ置¹⁸³之¹⁸⁴以レ有ニ¹⁸⁵過マテ

弃棄、難難

而弃捨¹⁸⁶又於ニ¹⁸⁷冤ノ中ニ¹⁸⁸娼欲ノ心性殊ニ難レ治シ故ニ於ニ

經經

真言門ノ中ニ大佛頂經隨求集經禪摩呼瑜祇經理趣經等ニ

并并、菩薩

說下滅¹⁸⁹娼欲ノ罪一法上其ノ中ニ觀自在并悲願勝ニカ¹⁹⁰於

¹⁷⁷「十八道次第作」①ニハ「十八道ノ作法」トアリ。

¹⁷⁸「依ニ儀軌一也」①ニハ「依ニ儀軌」トアリ。

¹⁷⁹「云云」①ニハ無シ。

¹⁸⁰「言曰」①ニハ「言」トアリ。

¹⁸¹「大慈悲」①ニハ「大悲」トアリ。

¹⁸²「置之」①ニハ「示レ之」トアリ。

¹⁸³「經」①ニハ無シ。

¹⁸⁴「隨求」①ニハ「大隨求」トアリ。

¹⁸⁵「瑜祇經」①ニハ「瑜祇」トアリ。

¹⁸⁶「理趣經」①ニハ「理趣」トアリ。

¹⁸⁷「說下滅娼欲ノ罪一法上」①ニハ「說下滅娼欲ノ罪一法上」トアリ。

¹⁸⁸「於」①ニハ無シ。

¹⁸⁹「娼欲ノ罪一法上」トアリ。

¹⁹⁰「於」①ニハ無シ。

准胆—准提

第—第

余尊^ニ故^ニ殊^ニ不^レ行^ニ諸經^一為^ニ重犯^一救^ニ度男犯^一故矣

一如意輪觀音^ヲ本尊^ト定事^ハ成賢ノ時代ヨリ也^⑮上代^ハ

不定也^⑮謂聖宝^ハ上宮太子^⑮再誕^⑮如意輪ノ權化^⑮鎮守准胆^ハ如意

輪ノ化身也^⑮鎮守開山ノ本地相應^{スルカ}故十八道ノ本尊^ト

定^ル也^⑮沙迦羅龍王ノ第三^⑮子天竺無熱池善女龍王也

兩社共^ニ女躰也^⑮准胆^ハ吉祥天ノ形慈社^ハ如意輪^⑮化身也^⑮僧形^ト顯^レ尼形^ト顯^ル也^⑮

⑮ 已上イ本一紙

已上四度土代ノ通也^⑮土代ハ報恩院隆源僧正

有^ニ御清書^一根来寺中性院聖融^エ被^レ遣^一一卷也

御本云於上西々行樹院書之性盛頼心房

⑮

⑮ 「ヨリ也」④ニハ「以来也」トアリ。
⑮ 「不定也」④ニハ「不定」トアリ。

⑮ 「再誕」④ニハ無シ。

⑮ 「如意輪ノ化身也」④ニハ「如意輪之化身也」トアリ。

⑮ 「沙迦羅龍王」④ニハ「娑迦羅龍王」トアリ。

⑮ 「第三子」④ニハ「第三女」トアリ。
⑮ 「如意輪化身也」④ニハ「如意輪化身」トアリ。

⑮ 「土代ハ報恩院隆源僧正有御清書根来寺中性院聖融^エ被^レ遣^一一卷也^⑮御本云於上西西行樹院書之性盛頼心房」

④ニハ無シ。

⑮ ④ニハ末ニ「竟—御口云 松橋方ニハ尊師ノ所作ハ誦ニ如意輪ノ咒^ヲ意ハ聖武帝聖德太子聖宝尊師此ノ三人ハ如意輪ノ化身也 予世ノ沙汰也 故ニ直ニ以テス本身ノ咒^ヲ當流ハ弥勒ノ咒^ヲ用^レ之弥勒觀音一休異名ノ故ニ其ノ證非^レニ先十八道次才ノ讚弥勒ノ法ノ讚同也 又弥勒儀軌云大慈輪大悲輪已上ニヲ加エテイル。「寛一」トアルノハ、此ノ四度折紙乾ニ「禮拜日記」ノ朱書込ミカラ寛濟師ト見ラレル。

八ニ四度次第諸流分別事

18 「四度次第諸流分別事」④ニハ「諸流四度次第分別事」トアリ。

才一第

一 三寶院 延命院元果ノ次第¹⁹作²⁰四度用²¹也²²也
但言²³广²⁴元果次第²⁵成賢ノ私記²⁶ヲ²⁷加²⁸フ

19 「作²⁰四度用²¹也²²」④ニハ「四度共用²³之²⁴」トアリ。

酉々ノ三流 共²⁹四度ノ日数³⁰四度次才³¹全同也 但シ許

20 「加²¹」④ニハ「加²²之²³」トアリ。

可³²ノ加行³³日³⁴入壇³⁵ノ之加行³⁶日³⁷者³⁸四度之日數³⁹ニ替⁴⁰ル也

21 「四度次才²²」④ニハ「定²³次第²⁴」トアリ。
22 「入壇之加行²⁵日²⁶」④ニハ「入壇加行²⁷日²⁸」トアリ。

旦一壇

一 勸修寺 日數許可入旦⁴¹
共⁴²ニ如⁴³三寶院⁴⁴ノ

十八道 石山御作

金 廣澤神樂⁴⁵岡⁴⁶
長慶御作

23 「西院」④ニハ「兩流」トアリ。

24 「四度ノ日數許可²⁵レ如²⁶勸修寺²⁷」④ニハ「四度日數如²⁸勸修寺²⁹」トアリ。

一 安祥寺 四度ノ次才ハ勸修寺
随心院⁴⁷西院⁴⁸連⁴⁹ル也 加行⁵⁰四度許可入旦共⁵¹ニ日數ノ事ハ皆⁵²百ヶ
日也⁵³四度日數許可⁵⁴レ如⁵⁵ニ勸修寺⁵⁶ノ

25 「十八道ハ御作也²⁶」④ニハ「十八道²⁷作御²⁸」トアリ。

一 西院 18道⁵⁷ハ御作也⁵⁸金台言⁵⁹广⁶⁰ノ三ッハ⁶¹高野山釋⁶²
迦院水嚴⁶³御作也⁶⁴西院ノ根本⁶⁵ハ寛朝也

26 「金台言²⁷广²⁸三ッハ²⁹」④ニハ「金胎護摩³⁰此³¹三³²」トアリ。

一 保壽院 18道⁶⁶ハ御作也⁶⁷金ハ法皇⁶⁸ノ御作⁶⁹台⁷⁰ハ御作⁷¹
言⁷²广⁷³石山⁷⁴御作也⁷⁵

27 「十八道御作也²⁸」④ニハ「十八道²⁹トアリ。

一 花藏院 20保壽院同也

28 「台²⁹ハ御作³⁰」④ニハ無シ。

一 御流 四ヶ度共⁷⁶ニ石山⁷⁷ノ御作也

29 「御作也³⁰」④ニハ「御作³¹」トアリ。

30 「保壽院同也³¹」④ニハ「³²院³³」トアリ。

処―所

一 小嶋

四ヶ度共ニ真興ノ御作也住処ハ²¹大和也
高野ノ住処ハ²²南院也

一 中院

十八道ハ御作内界ハ石山ノ²³御作也
言尸公三宝院或ハ廣澤也

一 持明院

十八道ハ御作金ハ法皇ノ御作言尸ハ大御室性信親王也或長和親王²⁴
²⁵御影堂ニ火ノツキケルヲ天人下テ消ス見玉ヘル²⁶人ハ者是也

²¹「大和也」④ニハ「和州也」トアリ。

²²「南院也」④ニハ「南院」トアリ。

²³「御作也」④ニハ「御作」トアリ。

²⁴「云」④ニハ無シ。

²⁵「人ハ者是也」④ニハ「人ハ即是也」トアリ。

頸―頸

一 禮拜加行日記 ²⁶元杲 ²⁷二字元

一 十八道 ²⁷同頸次第 ²⁸神分析願 同

散念誦同 結願作法同

一 金剛界 ^元同頸次第 ^成

一 胎藏界 ^元同頸次第 ^成

一 護摩 ^成同作壇并破壇一帖

神供次第 一帖 以上成―

濟―濟

一 淨衣^ト者時ノ衣必可^レ有^{白帷}也 隆濟ハ內衣沾着替ヘ給フ也

²⁶「禮拜加行日記」④ニハ「禮拜加行日數」トアリ。

²⁷「元」④ニハ「元杲」トアリ。以下

「元」此レニ同ジ。

²⁸「成」④ニハ「成賢」トアリ。以下

「成」此レニ同ジ。

一當流ハ、四度ノ間不レ置ニ柄香呂一五体投地普礼ス^{②19}

②19 已上イ本一紙

上西酉行樹院於ニ閑窓一書レ之性盛^房頼心

②19 「五体投地普礼ス」④二ハ「五體投地普礼^云」トアリ。

覺—覺、學—學
難—難、遍—遍

九^二十八道六法之事²²⁾

覺^上上人云事相ノ行人ハ教相顕露ノ難^ヲ加^ヘ教相ノ學者ハ事相無智ノ難^ヲ致ス一遍ハ是邪執也 二相必可^レ兼矣²²⁾

²²⁾「十八道六法之事」①ニハ「十八道六法事」トアリ。

²²⁾「矣」①ニハ「文」トアリ。

一十八道^ト者六法ノ中^ニ十八ノ義^ヲ含^ム也

六法²²⁾
^{ト云ハ}

一^ニ莊嚴行者^一ヲ法²³⁾ 此^ノ中^ニ五^{アリ}

一^ニ淨三業 二^ニ佛部^{淨身業} 三^ニ蓮花部^{淨口業} 四^ニ金剛

部^{淨意業} 五^ニ被甲護身

凡^ソ秘密ノ門^ニ入^シト思^ハハ^ハ先^ツ我身ヲ淨^テ佛法業^トスル也²⁴⁾

二^ニ結界ノ法 此^ノ中^ニ二^{アリ}

一^ニ地界 二^ニ金剛牆

身既^ニ調^ヘ淨^メヌレハ世界ノ不淨ヲ淨^メテ佛法修行地^ト

²²⁾「六法^{ト云ハ}」①ニハ「六法^ト者」トアリ。

²³⁾「此^ノ中^ニ五^{アリ}」①ニハ「此^ノ中^ニ有^レ五」トアリ。

²⁴⁾「秘密ノ門^ニ入^シト思^ハハ」①ニハ「欲^レハ、入^シト秘密ノ門^ニ」トアリ。

²⁵⁾「佛法業^トスル也」①ニハ「佛法ノ莖^トナス也」トアリ。

²⁶⁾「此^ノ中^ニ二^{アリ}」①ニハ「此^ノ中^ニ有^レ三」トアリ。

可^ス成^ス故^ニ此法^{アリ}

²²⁷「故^ニ此法^{アリ}」①ニハ「故^ニ有^ニ此法^{アリ}」トアリ。

三^ニ莊^一嚴道場^ヲ法^ニ 此^ノ中^ニ二^ニアリ

²²⁸「此^ノ中^ニ二^ニアリ」①ニハ「此^ノ中有^レ二^ニトアリ。

一^ニ道場觀^一 二^ニ大虚空藏世界^ヲ淨^メヌレハ本尊^ノ道場^ヲ設^クベキ故^ニ此法^{アリ}

²²⁹「本尊^ノ道場^ヲ設^クベキ故^ニ此^ノ法^{アリ}」①ニハ「可^レ設^ニ本尊道場^ヲ故^ニ次^イテ有^ニ此法^{アリ}」トアリ。

四^ニ勸請^ノ法^ニ 此^ノ中^ニ二^ニアリ

²³⁰「此^ノ中^ニ二^ニアリ」①ニハ「此^ノ中有^レ三^ニトアリ。

一^ニ送車輅^一 二^ニ請車輅^一 三^ニ迎請^一

道場^ヲマフケヌレハ本尊^ヲ請^シ奉^ヘキ故^ニ次^ニ此^ノ法^{アリ}

²³¹「本尊^ヲ請^シ奉^ヘキ故^ニ次^ニ此^ノ法^{アリ}」①ニハ「可^レ奉^レ請^シ本尊^ヲ故^ニ以^テ有^ニ此^ノ法^{アリ}」トアリ。

五^ニ結護法^ニ 此^ノ中^ニ二^ニアリ

²³²「此^ノ中^ニ二^ニアリ」①ニハ「此^ノ中有^レ三^ニトアリ。

一^ニ降三世^一 二^ニ金剛網^一 三^ニ火院^一

諸^ノ魔縁内障^ヲナセハ此^ノ障^ヲ除^シ為^メニ 此^ノ法^{アリ}

²³³「内障^ヲナセハ此^ノ障^ヲ除^シ為^メニ此^ノ法^{アリ}」①ニハ「為^メニ内障^ヲ為^メレ除^カレ之有^ニ此法^{アリ}」トアリ。

六^ニ供養法^ニ 此^ノ中^ニ二^ニアリ

²³⁴「此^ノ中^ニ二^ニアリ」①ニハ「此^ノ中有^レ三^ニトアリ。

一 閼伽 二 花座 三 普供養

事理殊勝ノ妙供ヲ本尊ニ供養スルヲ供養法ト云

一半跏座右足正左ノ股ヲ邪上ニ置ハ正道ヲ以テ邪道ヲシツムル由也

以上六法十八義是也

235

一 四度ノ間瓶花立替ル「油器サウヂノ」

余流ハ大途七日ツ、瓶花立替ヘ油ツギヲサウジスル

也 幸心ニハ不レ然ラ 謂花ハシホミ次才 油ツキハヨ

ゴレ次才ト云 已上

源雅僧正ヨリ 性盛傳ニ写之 頼心房

④ 已上イ本一紙ニス

235 「妙供ヲ本尊ニ供養スルヲ供養ト云」①ニハ「妙供ヲ供ニ養玉ヲ本尊ニ云ニ供養法ト也」トアリ。

236 「一半跏座右足正左ノ股ヲ邪上ニ置ハ正道ヲ以テ邪道ヲシツムル由也」此ノ類似ノ文ハ④ニハ乾二ノ「十八道加行作法」ノ末尾ニ収メラレテイル。

237 「以上六法十八義是也」④ニハ無シ。

238 ④ニハ「以源雅僧正御本寫之」トアリ。

239 「四度ノ間瓶花立替ル「油器サウヂノ」」此ノ類似ノ文ハ④ニハ坤一「華備様」ノ末尾ニ収メラレテイル。

240 「源雅僧正ヨリ 性盛傳ニ写之」頼心房 ④ニハ無シ。

帋紙

已上九通為別帋^ト書寫傳來スル^レ披覽不^レ便^{②④}
曰^レ之幸^ニ得^ニ折帋^一間私^ニ一帖^ニ書寫ス 但一覽捷徑ナル而已堅^ク
禁^ス他見^ヲ^③加行者ハハ授与之一時ハ必々以別帋一通宛ナル耳

②④ 「已上九通為別帋^ト書寫傳來スル^レ披覽不^レ便因^レ之幸^ニ得^ニ折帋^一間私^ニ一帖^ニ書寫ス 但一覽捷徑ナル而已堅^ク禁^ス他見^ヲ加行者ハハ授与之一時ハ必々以別帋一通宛ナル耳」①ニハ無シ。

一十八道礼拜加行ノ勤様已下ハ上來ノ九通ノ上ヲ摘ミ記者也②④

一本尊如意輪毎日三時五十日

初夜

一 礼拜百反五体投地礼文曰 半疊ニ座シ畢 摺テ二念珠ヲ祈誓シ

疊—疊
欵—欵

金二丁ニ歟

心經 七卷 理趣經 一卷勸請入句自他法界同利益

次四智讃 心畧讃 不動讃 至心廻向

尊勝陀羅尼 七反 如意輪大咒 廿一反

同中咒 千反 同心中心咒 百反

金一打 摺ニ念珠ヲ祈誓シテ 半疊ヨリ下タリ 礼文ヲ唱ナ
ガラ三返礼スル也

已上本尊一座ニテ 初夜畢 但シ開白ノ時斗リ大師尊

②④ 「一十八道礼拜加行ノ勤様已下ハ上來ノ九通ノ上ヲ摘ミ記者也」
以下ハ九通ノ折紙ヲ包ム紙ニ書キ記サ
レテイルトコロヲ認メタモノデ、此ノ
「十八道礼拜加行勤様」ハ、①ニハ乾
二ノ外題「禮拜日記」内題「十八道加
行作法」が参照サレルガ同一デハ無イ。

師ノ勤^{メラ} 如^ニ日中ノ加^ヘ勤^ル也

後夜

一 礼拜百反<sup>五体投地
文唱ル也</sup>

次^ニ半疊^ニ座^シ摺^リ念珠^ヲ一^ヲ祈誓^ノ 金^ニ三^丁

心經七卷 理趣經一卷<sup>勸請句
自他法界同利益</sup>

次四智讚 心畧讚 不動讚 廻向

尊勝陀羅尼 七反 本尊大咒 廿一反

中咒 千反 心中心咒 百反

金一反 摺^ニ念珠^一祈誓^{シテ} 半疊^{ヨリ}下^{リテ} 礼文唱ナカ

ラ三度礼^{スル}也

已上後夜ノ一座畢^ヌ

日中

一 礼拜等本尊ノ座後夜ノ勤方ニ全同也

大師御前
ヲマヘ

一 礼拜三反礼文不レ唱也

次金二丁

理趣經 一卷勸請句如レ常弘法大師増法樂

次四智讃

心畧讃

不動讃

廻向

礼懺 一卷

上十五日 金剛界
下十五日 台藏界

宝号 百反

南無遍照金剛

次金一丁

摺ニ念珠ヲ心中祈誓シテ

下礼盤

礼拜

三反礼文不レ唱也

尊師御前シノヲマヘ

礼拜三反礼文不唱之

次ニ半疊ニ座ス摺ニ念珠ヲ心中祈誓ヲ

次金二丁

理趣經 一卷勸請句
理源大師増法樂

次四智讃 心畧讃 不動讃 廻向

礼懺 一卷上十五日 金界
下十五日 台界

弥勒真言 百反 タンバイタレイヤソワカ

半疊ヨリ 下リ礼拜 三反礼文不レ唱

已上日中ノ座ハ三座ニ勤畢

一道場莊嚴之事

机一脚 佛具一面 飯食ニツ 瓶花ニツ

灯明二灯^{モ兩方} 一灯^{モ右方} 打鳴一ツ 右方置^レ之

半疊一枚 膝机一脚^{理趣經載「置之」} 礼懺

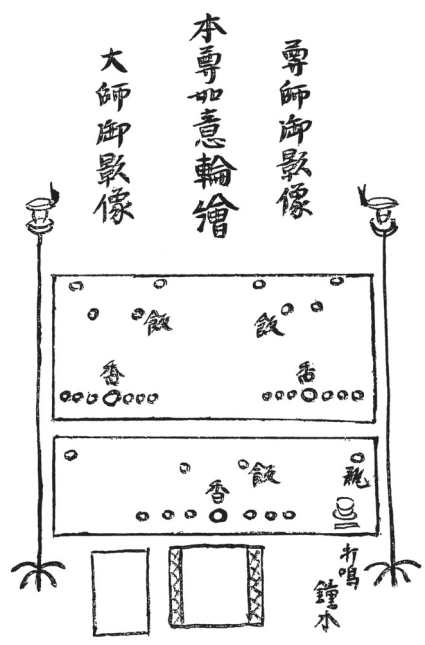
焚―熟

又開白結願^{ニハ} 焚佛供三尊ノ上ニ各々二杯ツ、備^レ之

翌日^{ヨリ} 日中斗リ 毎日洗米備^レ之 洗米^{ヲハ} アライヨ子ト

云也 清^キ器物ニ入^レ置^テ 毎日可^レ供也

一礼拜加行ノ莊嚴壇ノ畠如^レ左 若シ灯明一灯用^ル時ハ
行者ノ右ノ方ニ置^レ之



右之手鏡者小久保真福寺圓師之本也

取—最

一四度ノ別行最畧之日記

- 一十八道加行^{ニハ}勤^ニ礼拜加行^一
- 一十八道初行^{ニハ}修^ニ二十八道ノ法^一
- 五十日
- 一七^ケ日

- 一 十八道ノ正行^{ニハ}修^ス二十八道法^{一ヲ} 廿五日
- 一 金剛界ノ加行^{ニハ}修^ス二十八道法^{一ヲ} 廿五日
- 一 金剛界ノ初行^{ニハ}修^ス金剛界法^{一ヲ} 一七日
- 一 金剛界正行^{ニハ}修^ス金剛界[®]法^{一ヲ} 廿五日
- 一 台界ノ加行^{ニハ}修^ス金界ノ法^{一ヲ} 廿五日
- 一 台界ノ初行^{ニハ}修^ス台界ノ法^{一ヲ} 一七^ケ日
- 一 台界ノ正行^{ニハ}台界法 廿五日
- 一 護^ハ 一七^ケ日

以上最畧

- 一 限^テ護^ハノ法^ニ加行^ハ無^シ之故以^ニ台界ノ法^ヲ用^{ニル}加^ハ行^ニ先^シ之
- 一 於^モ護^ハノ法^ニ初行^ハ一七日正行^ハ百日^ト五十日^ト廿五日^トノ日數雖^レ有^レ之依^ニ最畧ノ法^ニ合法^ヲ一七日修^レ之
- 一 於^ハ西^ニ四^ニ度共^ニ初行^ハ一七日 加行^ト正行^ト各^ニ

百日^{ナリ}是如法丁寧ノ作法也

一 於^ニ田舎^一初行^ハ各々^一一七日^{ナリ} 加行^ト正行^ト各々^一
五十日也 最中畧ノ法也

一 初行一七日開結ノ日数初夜^ニ開白^シ八日目ノ日中^ニ結
願^{スル}也 故^ニ名目^ニ云^ニ八日結願^ト

一 加行^ト正行^ト開結ノ日數ノ初夜開白^シ廿六日目ノ日中^ニ
結願^{スル}也 百日^ト五十日^トノ例可^ニ准知^一

一 四度共^ニ加行^モ初行^モ正行^モ各々開白結願ノ表白有^レ之

已上

糸引事 酉酉視聽分

一金剛ハ上轉ナル故樞ニ卷時糸ヲ上方エ取 台界ハ下轉ナル故ニ以前ノ糸ヨリ下エ取ル也

刁一寅

一總ノ糸ヲ引ニ三ノ様アリニハ如レ上一義ハ辰巳ノ角ヲ金ノ如クニ引キ^④ 未申ヲ胎ニ引戌亥ヲ金ニ引丑刁ヲ台ニ引也

一常ニ一壇立ル時ハ糸ノ引様 五色佛供 造華何^ヒ 台藏如ニ口傳一壇灌頂 万荼羅供 常住ノ壇等悉此ノ分也 但シ如ニ金界一用ヒ習モ有欵 理性院ノ習ハ此ノ分也 一結縁灌頂ノ時ハ台藏ニテ行エハ台ノ如ク金剛界ニテ行ヘハ金ノ如ク也 是ハ一旦ニテ行フ時ノ事也 二旦ニテ行ヘハ不レ及ニ是非ニ事也

旦一壇

以上視聽スル也

鳥居五色糸卷付事

隆源僧正記云 鳥居ノ頭ヨリ五六分計リ下ノ辺ヨリ左右ヘ引渡ス也 凡ソ引五色ノ様等自ニ丑寅一次第ニ引廻之ヲ壇ハ何ノ方ヘ向ヒ五色ノ糸ハ隨方ナルベシ

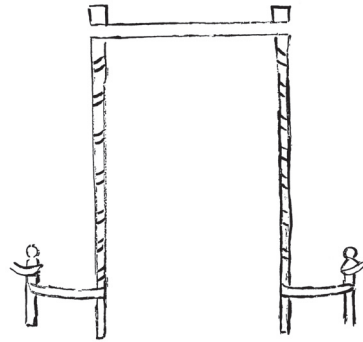
問云糸引ク時ノ作法印明等如何

荅云報恩院源雅僧正并深應ノ仰ニ云 糸縫ノ時惣別加持等既ニ畢ヌ何ソ重テ加持ヲ用シ耶 當流ノ習ハ此レ迄也

鳥居之事

隆源僧正御記

一鳥居ノ頭或ハ宝形或ハ矢ハツニモ非也 直ク打切タル様也 末ハ少シ太ク本聊細シ



中性院性盛ノ御本^{ニテ}写レ之

頼心房性盛ハ智山日譽ノ御弟子小池坊
一代也 北野蓮臺寺中興ノ之名匠也

享和三癸亥閏正由小子有孝別行以宗師本
書校之竟 金子 有豐記